

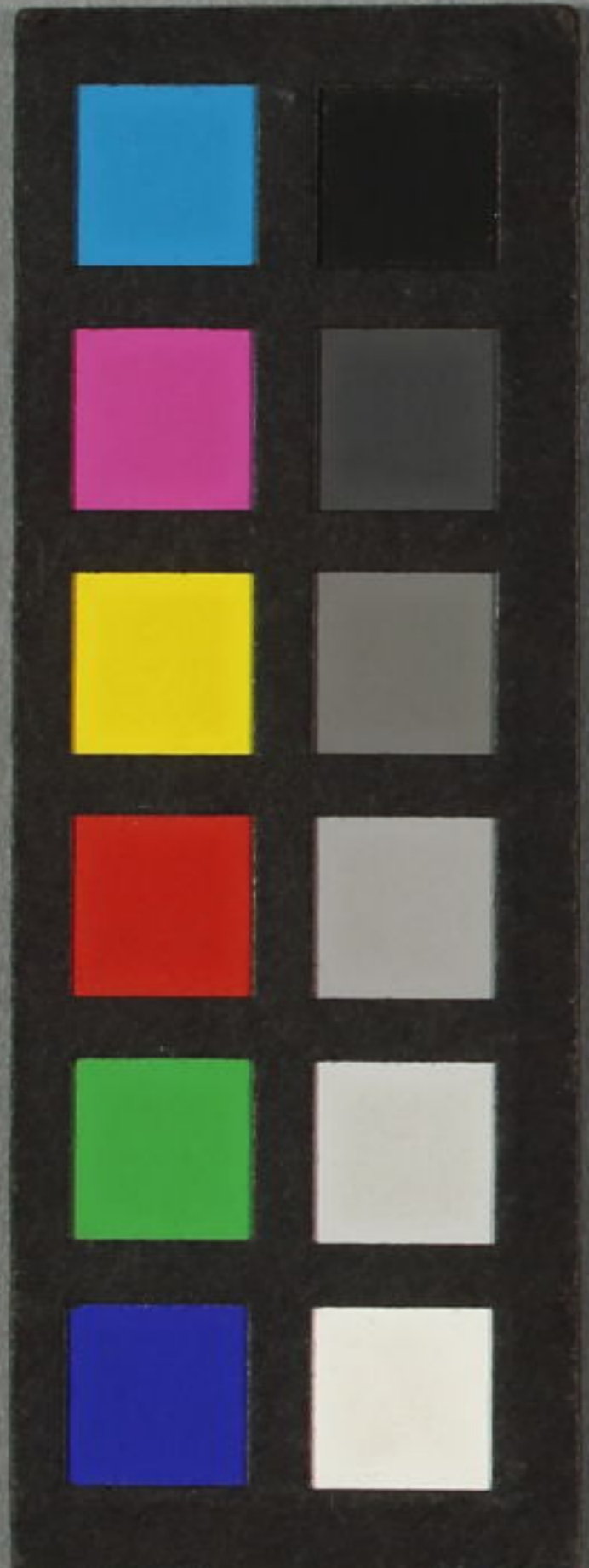
種彦
諸國物語



遠江卷
上

文庫

~ 13
3760
12





上處女菊見

ついでに...
かたじけなく...
わんぱく...
あんなに...
さあ、さあ...
さあ、さあ...
さあ、さあ...

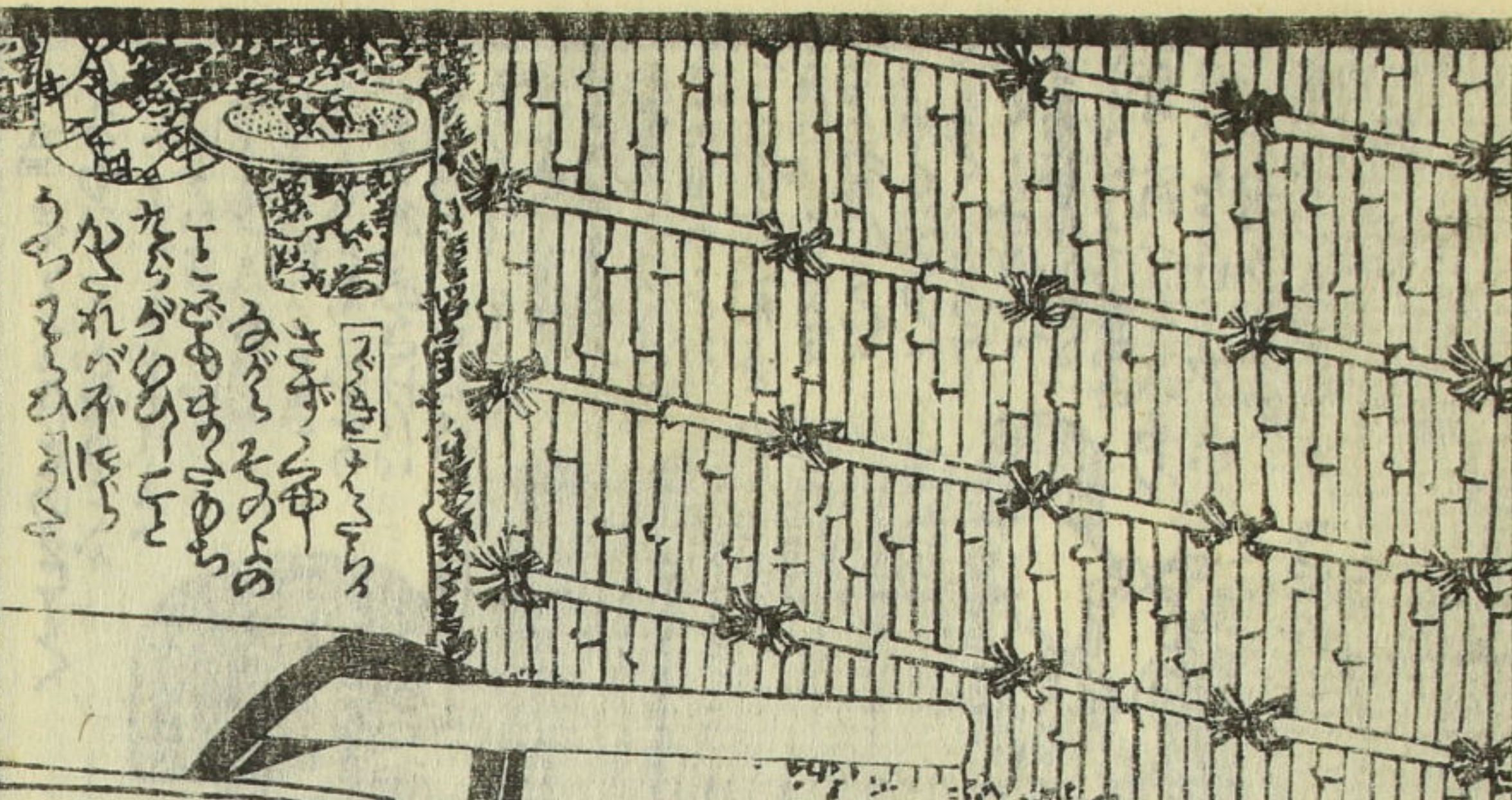
あんなに...
あんなに...
あんなに...



天津幸助

あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...

あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...
あんなに...



山崎のついでに
ついでに
ついでに
ついでに

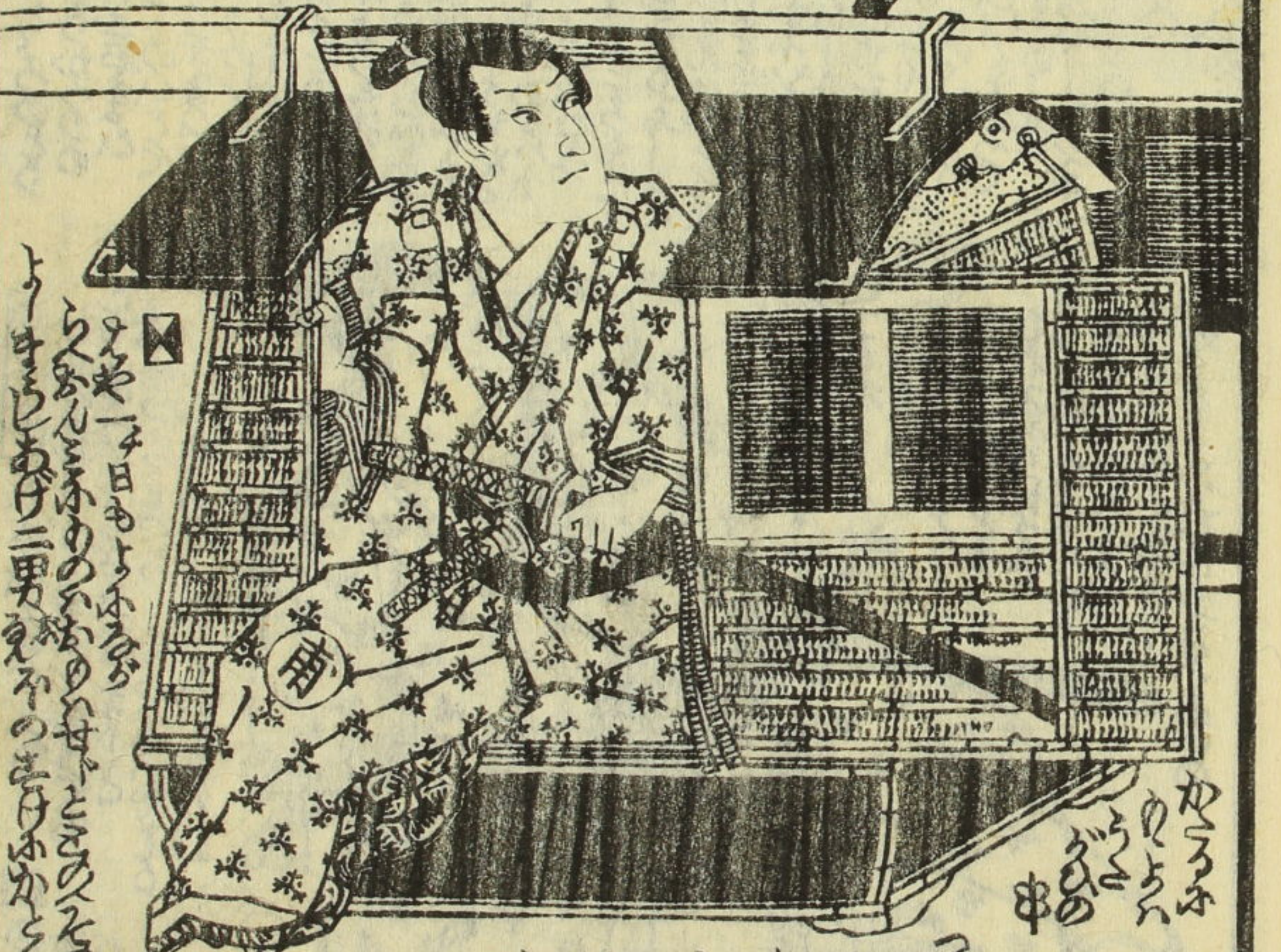
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに



あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに

あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに

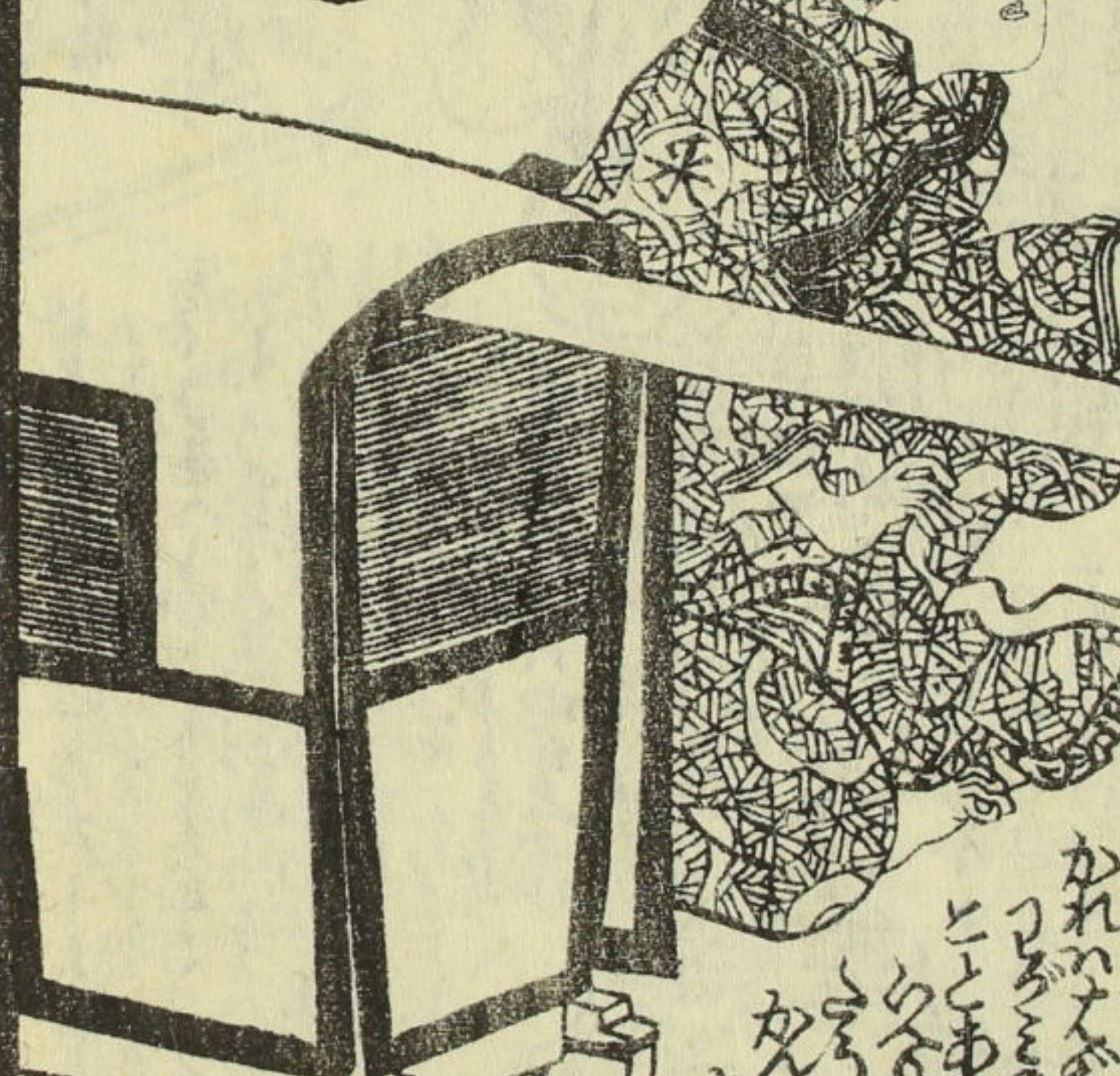
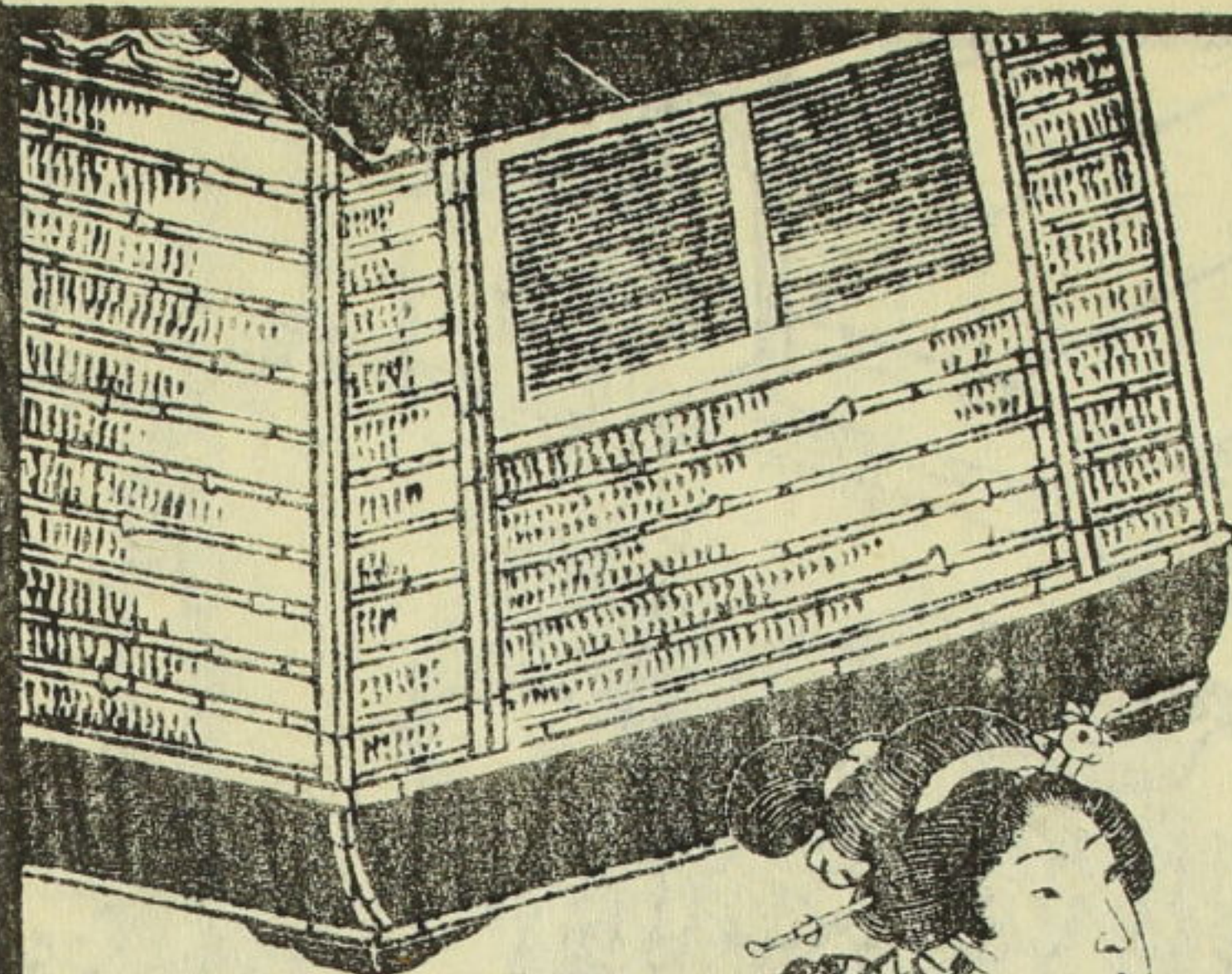
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに



あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに

あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに
あつちのついでに

江戸でんぶのききあつたそれのあつた
 のごまじりてまじりてかきあつたあつた
 せんじりてあつたあつたあつたあつた
 まじりてあつたあつたあつたあつた
 まじりてあつたあつたあつたあつた
 まじりてあつたあつたあつたあつた
 まじりてあつたあつたあつたあつた
 まじりてあつたあつたあつたあつた
 まじりてあつたあつたあつたあつた



〇あるとあつたあつたあつたあつた
 〇あるとあつたあつたあつたあつた
 〇あるとあつたあつたあつたあつた
 〇あるとあつたあつたあつたあつた
 〇あるとあつたあつたあつたあつた
 〇あるとあつたあつたあつたあつた
 〇あるとあつたあつたあつたあつた
 〇あるとあつたあつたあつたあつた

笠立亭仙果編述
 一陽齋豊国画

榮久堂蔵新版舊神史目録

江戸勸進大角力
 相撲起顯
 八輯
 九輯

江戸初編ハ相撲の古方と云々安永より寛政までの
 藩内とのせうき二編より三編までは寛政の元年
 より天明のころ大角力藩内并時天十日勝負付と云々
 一編あり二編あり三編あり四編あり五編あり
 六編あり七編あり八編あり九編あり十編あり

永花百人一首文十抄
 全

菊香百人一首文十抄
 全

御家子
 子供案文
 全

繪入
 實語教雅繪解
 全

御詔染逢山鹿子
 六編揃
 全

源氏六十四帖
 全

但ぬ十回校榜
 全

書肆

江戸より町おやちり橋角
 山本平吉梓

程彦法國物語
卷江卷下
下帳下

仙果作
豊國画

嘉永
四年
亥亥
上梓



福 三



邯鄲

一

邯鄲誌園

毛姑のつり

遠江のまき

後帳

仙果化

下

豊園画

山本上様

廣名摺のうき









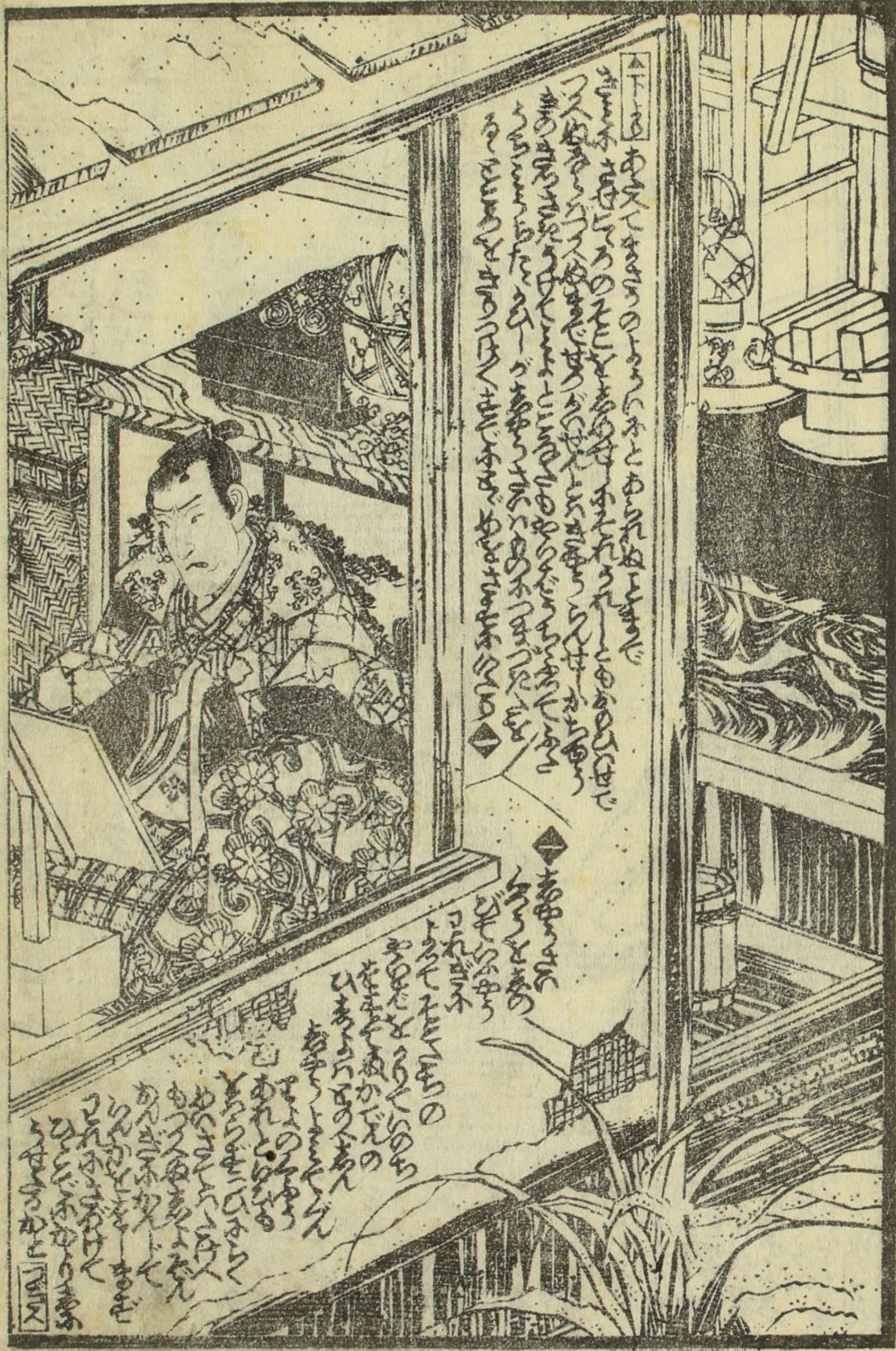
下 部 十一

日



下 部 十一

日





四郎

十一



四郎

十一

ついでにいらがごあはれなりとて
いふよとぬまされせらふとされと
たれくもあの人へけれかりととら
るんぎもかりしころうしへん人のま
川らちとよやまるともあひこそ
あれかするんさかこせとあひのこ
よめてあめよよさとのこい
めくまふらつらつあめ
ささたてこやまよ
らひるこさあひの
もたらめるととせう
だそとのあも
よんたの
とて
せんとも
たそとあひ
よんたの
とて



いふよとぬまされせらふとされと
たれくもあの人へけれかりととら
るんぎもかりしころうしへん人のま
川らちとよやまるともあひこそ
あれかするんさかこせとあひのこ
よめてあめよよさとのこい
めくまふらつらつあめ
ささたてこやまよ
らひるこさあひの
もたらめるととせう
だそとのあも
よんたの
とて
せんとも
たそとあひ
よんたの
とて

ついでにいらがごあはれなりとて
いふよとぬまされせらふとされと
たれくもあの人へけれかりととら
るんぎもかりしころうしへん人のま
川らちとよやまるともあひこそ
あれかするんさかこせとあひのこ
よめてあめよよさとのこい
めくまふらつらつあめ
ささたてこやまよ
らひるこさあひの
もたらめるととせう
だそとのあも
よんたの
とて
せんとも
たそとあひ
よんたの
とて



いふよとぬまされせらふとされと
たれくもあの人へけれかりととら
るんぎもかりしころうしへん人のま
川らちとよやまるともあひこそ
あれかするんさかこせとあひのこ
よめてあめよよさとのこい
めくまふらつらつあめ
ささたてこやまよ
らひるこさあひの
もたらめるととせう
だそとのあも
よんたの
とて
せんとも
たそとあひ
よんたの
とて





乃
乃
乃

此
は
二
三
の
月
夜
の
情
景
を
表
し
て
い
る
。

秋乃勢
乃乃乃
乃乃乃

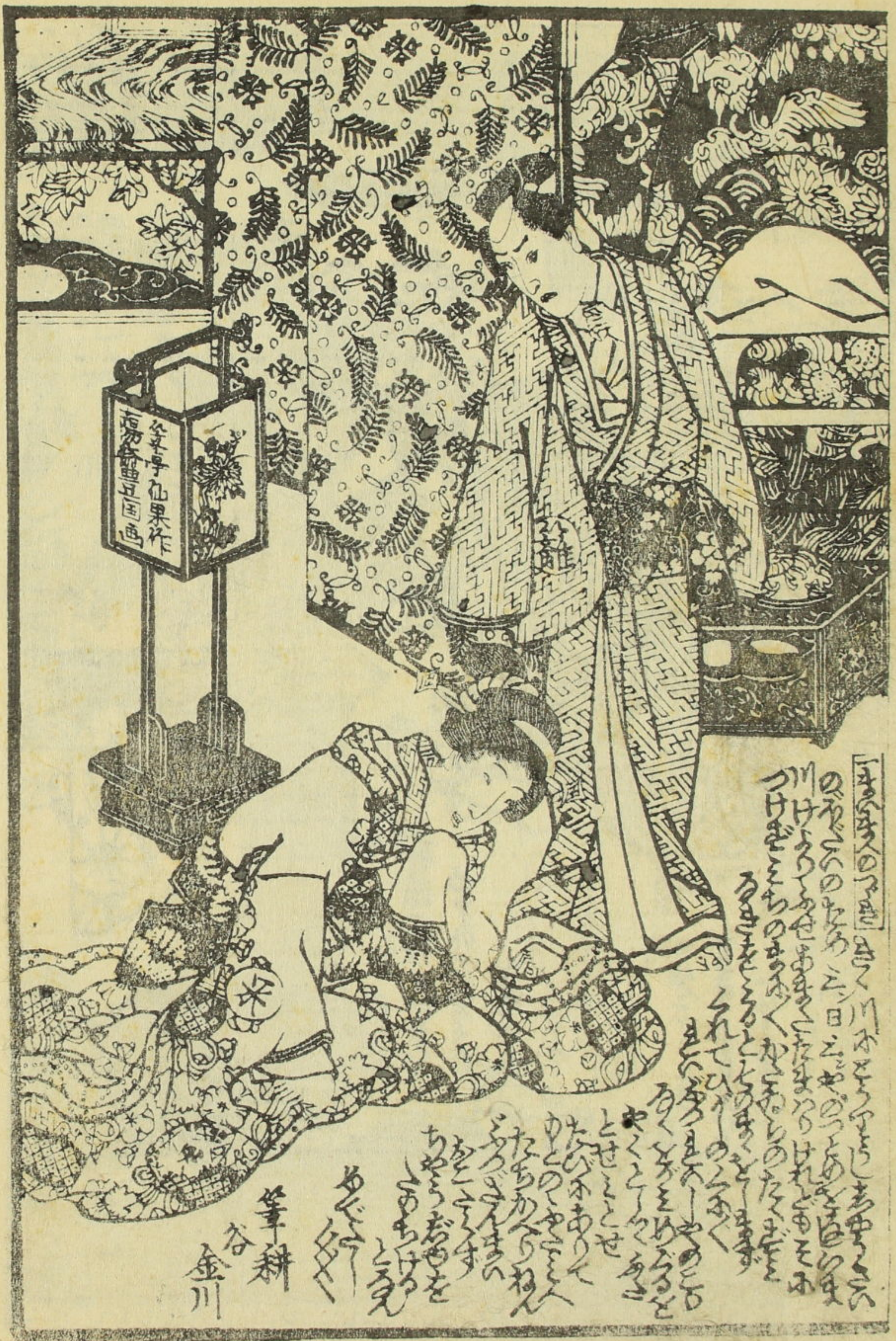


乃
乃
乃

此
次
編
中
の
お
梅
の
色
と
形
を
入
れ
て
お
せ
し
て
い
る
。

乃
乃
乃

乃乃乃
乃乃乃
乃乃乃



嘉永四年
新春刊行

邯鄲諸國物語遠江の巻

故柳亭先生舊案
一陽齋豊國画

邯鄲諸國物語の巻は此章遠江巻に及ぶひさしく其の五十年昔の事なれば版元より
ておぼやかりしおぼやかりしも蹟詔ふおびやふ所もこのころよりありしは
試み一國より一説詔ふをさすも詔おほしうこれと物詔より詔一々詔
られはしう首尾の分りたる蹟物ごとくありしをさすも詔おほしうこれと物詔より詔一々詔
をさすも詔おほしうこれと物詔より詔一々詔

伊勢の巻 合本 袋

笠亭仙果

近江の巻 合本 二袋

附出羽の巻
いづれの巻のこともあらず

大和の巻 合本 三袋

播磨の巻 合本 三袋

同攝津の巻 前後合本三袋 笠亭仙果作 嗣刻
芳町山本平吉版

